

＜校長式辞＞

あずまの山々が冬ごもりから姿を現し、雲一つない青空の広がりには春の訪れを感じる。このよき日に、本校父母教師会会長 佐竹 康 様をはじめ、多くのご来賓の皆様のご臨席を賜り、ここに 第72回卒業証書授与式を挙行できますこと、心より感謝し、卒業生とともに厚く御礼申し上げます。ご列席の保護者の皆様、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。そして、卒業生30名の皆さん、卒業おめでとう。

今年度、秋保中学校に赴任し、伝統を継承しつつ新しい風を吹き込む様々な活動を見てきました。卒業生の皆さんは常にその先頭に立ち、全校をリードし取り組んでくださいました。日本の中心東京において多くの体験を積んだ修学旅行、堂々と自分の意見を発表する姿が印象的だった生徒総会、どの部も「秋中らしさ」を発揮し、粘り強く最後まであきらめずに精一杯試合に臨んだ最後の中総体、今年度初めて行われた四校交流合唱コンクールでは、クラス一丸となって、すばらしい合唱を披露し、感動を与えました。夏休みを利用したキャリアインターンシップでは38箇所の地域の事業所の協力で、働くことの意味と人とのつながりの大切さを学びました。文化発表会では、行事や授業の展示発表のほか、太鼓演奏などのステージ発表を盛り上げました。自分たちで種目を考え、先輩後輩が一緒になって大いに盛り上がった体育祭。その一つ一つにおいて皆さんは、秋中生らしい「元気。勇氣。根気」を後輩達に示してきました。諸先輩が築いてきた秋保中学校のすばらしい伝統に支えられ、幼稚園、小学校を通して、そして地域の皆さんとの関わりを通して皆さんは地域を支える頼れる存在に大きく成長しました。

皆さんは、東日本大震災を小学校一年生の時に経験しています。あれから8年が経ちました。野外活動で体験した南三陸。気仙沼での震災学習を通して、自然の力の大きさとそれに立ち向かう人間の営み、力を合わせて復興に取り組んでいる姿、心に傷を追いながらも懸命に生きている人達の姿を目の当たりにしました。「自分は他の人たちのために、何ができるのか」皆さんはgiveの気持ちを優先する人達です。全国でいじめが問題になっている中で、皆さんは自分のことよりも仲間、クラスのことを考え、問題が起これば自分たちのこととして放っては置かない浄化力を持っていました。秋保中学校は「いじめを絶対に許さない。」という強い気持ちを後輩達に伝えてくれました。震災の経験を通して学んだその気持ちをこれからも持ち続けていってほしいと願っています。

これから秋中を巣立ち、高校そして社会へと旅立つ皆さんに、餞として次の言葉を贈ります。「迷ったら遠くを見つめなさい。」これは聖路加国際病院名誉院長の日野原重明先生が残した言葉です。日野原先生の後輩であるノーベル賞を受賞された山中伸弥教授の座右の銘でもあります。人生は楽しいことや苦しいこと、山あり谷ありです。辛いとき、判断に迷ったときは、冷静に遠くを見ること。そうすることによって明日が開けてくるという意味です。東京大空襲やダッカハイジャック事件、地下鉄サリン事件を経験した日野原先生がたどり着いた答えです。これから先、皆さんは今まで以上にいろいろなことを経験することと思います。その経験には、良いことも辛いこともあるでしょう。辛いことや悲しいこと、失敗してしまったり、思わぬことで胸を痛めたりして、夢を諦めようと思うことがあるかもしれません。そのような状況においても、Let 't be! 自分を疑わず、恐れず、失望することなく希望を抱き続ける。それが「遠くを見つめる」ということです。以前ウサギとカメの話で「カメはゴールの先を見ている。」と話しました。困難な状況にぶつかった時こそ、目先のことに惑わされることなく、心を落ち着けて元気を取り戻し、未来を、遠くを見つめて困難を乗り越えてほしいと思います。

保護者の皆様、この3年間で心も体も見違えるように成長し、卒業証書を手にしたお子様の姿に、喜びもひとしおのこととお祝い申し上げます。皆様のかげがいのない宝物である大切なお子様をお預かりし、私たち教職員は、時に厳しく諭しながら、時に優しく寄り添いながら、教育活動に取り組んで参りました。これまで本校の様々な教育活動に対し、ご理解とお力添えを賜りましたこと、教職員を代表し、心から御礼申し上げます。

また、本日も臨席を賜りました、ご来賓の皆様、そして地域の皆様のご厚意に支えられ、卒業生は本日、秋中を巣立っていきます。これからは、生まれ育ったこの秋保のため、「ふるさと秋保」を支える一人の若者として、国内、そして世界の人々に「秋保の魅力、秋保の良さ」を発信できる人材として活躍していただけることと思います。今後とも卒業生の前途を温かく見守り続けて下さいますようよろしくお願い申し上げます。

最後に、卒業生の皆さん一人一人が、校訓に示された「敬愛。体力。向学心」の精神を胸に、秋中出身であることを誇りに、未来を見つめ、自らの人生を切り開いていくことを祈念しまして、式辞といたします。

平成31年3月9日

仙台市立秋保中学校 校長 千葉 慎